

春日丘高等学校 2年川本

私はカンボジアスタディツアーに参加して様々な繋がりを感じることができました。

一つ目は、国家としてのカンボジアと日本の繋がりです。カンボジアに対する日本の支援の強みを知っていますか？それは「モノだけでなく人も支援する」です。これは一体どういうことかという、例えば、ある国がカンボジアを支援するために病院を建てて、機材を運び込んだとします。普通ならばここで終わってしまいますが、日本は医療関係の専門家を派遣して、現地の医療スタッフを育てることによって地域に根付くまで支援を行います。実は、この考え方は日本チームによるアンコール遺跡群の修復にも応用されています。アンコール遺跡群の修復における日本チームの特徴は、遺跡を現地の人の手で守り伝えていくためのカンボジア人からカンボジア人への技術伝達のために、カンボジア人の専門家を育成していることです。現地の人に遺跡修復のための作業員としての役割を与えている国は多くありますが、その作業員を支持する役割にあたる専門家を育てている国は日本とドイツのみだそうです。私はこのことを聞いたとき、日本の支援の強みは、次の世代のために守り続けなければならないと強く感じました。そしてこの考え方はカンボジアの人々にも広がっており、カンボジアがイラクなどの国に地雷除去技術を伝達するときに応用されています。

二つ目は、日本人としてのカンボジアの人々との繋がりです。ツアー中に私は現地のガイドさんにお話をゆっくり聞ける機会を得ることができました。そこで私は、彼女にカンボジアにおける日本とはどのような存在かを知るために、様々なことを質問しました。なんでも、カンボジアでは「クレヨンしんちゃん」や「おしん」、「東京物語」など日本の映像作品がとても人気だそうです。また、カンボジア人に大人気の歌手でポルポト政権下で命を落としたシン・シサモットさんは橋幸夫の「恋をするなら」をカバーするなど、日本の歌も大変人気があるようです。また、寺子屋を訪れた時は日本から寄贈された本がたくさんありましたし、現地の子どもたちは私たちが持ってきた折り紙やあやとりで夢中になってくれました。レストランでは日本語であいさつをしてくれる人もいました。それに、行きかう車はトヨタやマツダなど日本製のものばかり。ニュースでは中国とカンボジアの親密な様子が報道されているため、日本はカンボジアの人々にとってどのような存在なのだろうとずっと疑問でした。しかし、思っていたより日本とカンボジアの人々の距離は近く、ガイドさんがカンボジアの人々は日本が大好きですよと伝えてくださったときは、とても嬉しかったです。

三つめは、ツアーを共にした仲間との出会いです。私たちは、このスタディツアーに対してそれぞれが全く違うテーマを持っていました。だからこそ、それぞれに違う発見があり、意見を交換し合うことがとても楽しかったです。この縁をこれからも大事にしていきたいと思います。

今回のスタディツアーは様々な人に支えられて成り立っています。決してそのことを無駄にしないために、学んできた様々なことをたくさんの人に伝えることができればと思います。ありがとうございました。